

群馬県立大泉高等学校 学校評価一覧表①(平成31年度(令和元年度)版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価					
評価対象	評価項目	具体的数値項目		記測	補フ ケト導	改善策	記測	補フ ケト導	改善策			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	○各科の特色ある教育課程に75%以上の生徒が満足している。	○年度当初に授業の学習目標や評価方法について説明を適切に行うとともに、教科・科目間の構造について、適宜説明する。 ○授業改善や学校行事の見直し等を通じ、安心感や目的意識を持った学校生活を過ごせるようにする。	A	A	○各教科・科目の内容に対する満足度は生徒調査では79.1%と高く、引き続き授業の目標等について説明を丁寧に行うことが必要である。 ○生徒調査では本校を好きだと感じている生徒は68.4%であることを踏まえ、掬泉祭等の行事を通じ、生徒が主体的に活動できる場を提供する。	A	B	○教育課程に関する数値が第1回に比べ、低下傾向にある。各単元や授業開始時ごとに学習目標や他教科との関連性などを適宜説明し、教育課程に対する構造的な理解を促したい。 ○学校を好きだと感じる数値も第1回と比べ、低下している。行事運営の在り方等を再検討したい。			
		○自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。		○農学科で実施している教育活動の意義を十分に理解させる指導を徹底する。 ○活動の質を高めるため、実施する活動の意義、内容・方法等についての事前・事後学習を十分に行う。 ○社会人講師の活用やアクティブラーニング型の授業実践、プロジェクト学習を通じて、課題の発見や解決の手法を身につけられるようにする。	A		A	○農業科で実施している教育活動の意義を十分に理解させる指導を徹底するために、各学科で吟味をする。 ○活動の質を高めるため、実施する活動の意義、内容・方法等について、各学科、各部門で検討し徹底する。 ○社会人講師の活用やアクティブラーニング型の授業実践を通じて、課題の発見や解決の手法を身につけられるよう再確認する。各科において再認識する。		A	A	○「交流学習」や「一日体験学習」では前向きに取り組んでいることを裏付ける数値があり、教育活動の意義を定着させる指導を継続したい。 ○春・秋の泉農フェアでは、生徒・保護者とも目標値を上回る数値で活動を評価しており、意義を踏まえた活動を今後も続けていきたい。 ○課題研究や総合的な学習(探究)の時間は、全学科の学習の集大成としての性格を持つ。引き続き、授業改善を通じてその充実を図りたい。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○選択や習熟度による少人数授業やグループ学習・実習等の学習指導に75%以上の生徒が満足している。	○年2回の授業評価アンケートを実施し、実態を把握する。 ○授業規律の確保について職員が共通理解をもち、共通の基準により指導にあたる。	A	B	○少人数授業に関する満足度は生徒・保護者とも80%を超えており、引き続き、個に応じた授業を心がける。 ○授業規律の確保について、教員間の情報共有を密にするとともに、望ましい学習環境を整備できるよう、学級運営の在り方等にも共通理解を深める。	A	B	○少人数や選択授業に関し、2回の調査を平均すると、概ね目標を達成したと考えられる。引き続き、個に応じた授業を展開したい。 ○授業規律の確保を示す数値が低下傾向にある。職員の意識改革と情報共有が喫緊の課題である。			
		○授業中の生徒指導により80%以上の生徒が学習ルールを守って学習している。		○資格取得に対する啓発的な情報提供と、各科における計画的な指導によって、生徒の学習と資格取得の意欲の向上を図る。	B		B	○資格取得の利点について、進路指導の観点から啓発的な指導を日常的に行う。 ○資格取得率の向上のため、指導を継続する。		A	B	○資格取得に関する指導について、2回の調査を平均すると目標値は達成している。 ○資格取得に向けての啓発的指導を継続したい。
	○各科目で取得できる資格と資格取得に関する指導に70%以上の生徒が満足している。 ○各科の資格取得率が平均して60%以上である。	○各教科、科目の基礎的・基本的な内容について理解し、思考力、判断力、表現力などを70%以上の生徒が身に付けている。 ○各学期の定期試験の結果、学習成績不振者が10%以下である。	B	B	○教員相互の授業観察や授業研究会等を計画的に開催し、授業改善にむけた校内研修を複数回実施する。 ○成績不振者等に考査前の補充的指導を行ない、学習上のつまずきを改善する。	B	B	○ステップアップサポート事業に基づく職員研修や、「Find!7ティプナー」の受講体制の整備など職員研修の改善を一層、推進する。 ○授業に対する「中だるみ」が生じないよう、家庭学習も含めた学習の在り方について啓発的指導を進めるとともに、学期末段階の成績不振者について指導について留意する。	B	B	○職員研修を充実させたことで、思考力・判断力・表現力を促す授業への職員の共通理解が高まり、それを裏付ける生徒調査の数値が見られた。 ○補充的指導に対する規定を改定し、実態に合わせた確実な実施を促す体制を整えた。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	○生徒の状況や指導に関して情報交換する会議を月に2回以上実施している。	○各分掌会議、職員会議や学年会議等において、生徒の情報交換を通して生徒の変化を早期に把握し、職員の共通理解のもと組織的に個に応じた指導の充実を図る。 ○部活動、農業クラブ研究部活動の内容の充実を図る。	B	/	○生徒指導の研修会を行い生徒理解に努めると共に、生徒観察による生徒情報の共有を図る。 ○部活動や各種の学校行事において、生徒が主体的に活動する場面をできるだけ多く設定する。	A	/	○生徒理解と指導方法についての見識を深め、共通した生徒対応を図りたい。 ○文化祭や即売会等生徒が活躍する機会が多く見られた。今後も継続したい。			
		○職員組織的・継続的な指導により75%以上の生徒が生き生きと学校生活を送っている。		○部活動、農業クラブ研究部活動の参加者数調査を実施する。 ○部活動活性化のため各部の連携を図り、活動意欲を高める。	A		A	○部活動、農業クラブ研究部活動の活躍・成果を上げ活性化を図る。		A	A	○部活動、農業クラブ研究部活動の活躍・成果を上げ活性化を図る。
		○部活動や農業クラブの研究部活動に参加している生徒が60%以上である。		○スクールカウンセラーを有効に活用し、教育相談係と連携して生徒が相談しやすい環境を作る。 ○教育相談体制を整え、年に3回以上の二者面談期間を設ける。	A		B	○スクールカウンセラーを有した発行を定期的に行い生徒が相談しやすい環境を作る。 ○スクールカウンセラーを加えた教育相談定例会議で生徒の情報共有を行い適切な対応を図る。		A	B	○生徒が相談しやすい環境を作るとともにスクールカウンセラーとの連携を密にする。 ○個々の生徒についての情報交換、情報共有を図り指導に活かす。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○1日の遅刻者数が平均して6人以下である。 ○1日の欠席者数が平均して6人以下である。 ○心身の不調により保健室を訪れる生徒が平均して1日に8人以下である。	○遅刻防止指導を年間6回設定する。 ○全職員で、登校時指導を実施する。 ○保健室を利用する生徒に対し、遅刻・欠席の減少にむけて生活習慣の改善を促す指導に取り組む。	A	/	○生徒の規則正しい生活環境作りのために引き続き登校時指導を行う。 ○保健室利用者の状況を日誌で毎日管理職に報告し、生徒情報の共有化を図り生活習慣の改善を指導する。	B	/	○遅刻・欠席ともに目標値の倍以上の数値となった。登校時指導を継続するほか、基本的な生活習慣の確立に向けた啓発的指導にも注力する。 ○心身の不調を訴える生徒の目標値は達成したが、増加傾向にあり、組織的な対応を図りたい。			
										○頭髪、服装検査の結果、改善の指導を受ける生徒が10%以下である。	○定期的な服装・頭髪指導を行う。 ○職員の共通理解を図り、統一した指導によって生徒の規範意識を高める。	A
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○いじめの未然防止・早期発見のため、全生徒が真剣に取り組んでいる。 ○早期発見に努め、発見率が100%である。 ○いじめの発生防止に努め、いじめが発生した場合は適切な指導を行い、解消率が100%である。	○いじめ防止やSNSに関するLHR等の実施を通じ、いじめを許さない雰囲気作りに取り組む。 ○定期的に調査し組織的に生徒の情報共有を図る。 ○いじめ防止基本方針に則り適切な対応を行う。	A	A	○授業規律と生活指導の徹底をはかり、トラブルの起こりにくい環境作りを努める。 ○各HRでいじめ防止にむけてのLHRを実施し、SNSやインターネットの正しい使い方やいじめやトラブルの起因にならない関わり方について継続的に指導する。	A	B	○いじめに関するアンケートや生活調査、二者面談を通じて早期発見に努め、解消については組織的に対応する。 ○スマホ・SNSの利用について、啓発を図る。			
○各学年の進路ガイダンスの実施時期や内容に75%以上の生徒が満足している。 ○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。										○「自己の生き方」や「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。 ○1年次に実施する就業体験学習について「将来の進路選択に役立つ」と考える生徒が70%以上である。 ○生徒の進路希望について80%以上の保護者が理解している。	A	A
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	○各学年の進路ガイダンスの実施時期や内容に75%以上の生徒が満足している。 ○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。	○進路指導部と学年との緊密な連携を図り、3年間を見据えた計画的なガイダンスを実施する。 ○二者面談に進路関係資料を配付説明する。	A	A	○各学年毎に実施するガイダンスでは、充実した内容となるように係や学年で内容を検討し実施する。 ○二者面談後に生徒が進路相談や調べ学習ができるように閲覧室の進路関係資料等を整備し利用しやすくする。	A	B	○キャリア教育や社会人講師等による授業、上級学校見学、就業体験学習などで、「自己の生き方」「将来の職業」についてしっかりと考えられるように事前事後学習の時間を設ける。 ○家庭でも、低学年のうちから進路についての話題を持てるように、キャリア教育についての情報発信を行い理解してもらう。			
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○進路実現に向けて「自己の生き方」や「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。 ○1年次に実施する就業体験学習について「将来の進路選択に役立つ」と考える生徒が70%以上である。 ○生徒の進路希望について80%以上の保護者が理解している。	○「自己の生き方」や「将来の職業」等について、進路指導部と学年が連携して組織的・計画的に指導する。 ○事前指導において、社会のルールやマナー、職業スキル、事業所の研究等の指導を行う。 ○三者面談をはじめ、様々な機会を捉えて、保護者への情報提供と連携を図る。	A	A	○キャリア教育や社会人講師等による授業、上級学校見学、就業体験学習などで、「自己の生き方」「将来の職業」についてしっかりと考えられるように事前事後学習の時間を設ける。 ○家庭でも、低学年のうちから進路についての話題を持てるように、キャリア教育についての情報発信を行い理解してもらう。	A	B	○キャリア教育や社会人講師等による授業、上級学校見学、就業体験学習などで、「自己の生き方」「将来の職業」についてしっかりと考えられるように事前事後学習の時間を設ける。 ○家庭でも、低学年のうちから進路についての話題を持てるように、キャリア教育についての情報発信を行い理解してもらう。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○保護者や地域の方々を対象にした「学校公開」や「公開授業」の方法、内容、時期、日程等に75%以上の生徒が満足している。 ○PTA総会、学級懇談会、泉農フェア等の学校行事に50%以上の保護者が参加している。 ○学校のホームページを月4回以上更新し、生徒・保護者・地域に学校の活動等の情報発信を行う。	○ホームページ、通知、広報等により公開日時、内容、方法等の情報発信を行う。 ○保護者の参加を前提とする行事について内容や周知の時期、方法等について積極的な参加を促すよう改善を図る。 ○組織的、定期的な校内の情報収集を行うとともに、適切な発信を効果的に行う。	A	B	○ホームページの更新頻度が週2回以上となり、「掬泉通信」の発行等、情報発信への改善に取り組んでいる。一方、生徒や保護者の回答からは閲覧状況が不十分と思われるため、引き続き、改善に取り組む。 ○保護者の学校行事への参加状況が1学期は4割弱程度であった。2学期は公開文化祭等を控えていることもあり、参加状況を改善し、本校の教育活動への理解を一層高めたい。	A	B	○ホームページの更新頻度や「掬泉通信」の定期発行等、情報発信の改善は進んだが、保護者の閲覧状況は変化が見られなかったため、引き続き、改善に取り組む。 ○PTA総会では外部講師による「進路お金講座」の開催など、保護者の参加を促す新規事業にも取り組んだ。引き続き、改善を図りたい。			